

体育祭～スポーツフェスティバル2019～ 開催

12月15日、澄み渡る快晴の下、体育会本部主催の「体育祭～スポーツフェスティバル2019」が人工芝グラウンドで開催された。

本イベントは、2011年から学生有志により行われていた「スポーツフェスティバル」を、体育会本部が引き継いで実施するようになり、今年で6回目となった。参加した約500名の学生は、10のグループに分かれ、ドッジボール、綱引き、大縄飛びなどの競技に挑んだ。特に最終種目の選抜リレーでは、自チームの選手へかけられる大きな声援がグラウンド中に響いていた。体育会本部企画局長の伊澤直弥さん(律2年)は「参加者には、今回出会った仲間と今後も良い関係を築いてもらいたい」と語った。
(学生記者／川上)



ゼミ×父母の会で学生の野菜摂取量の改善に取り組む

12月17日から19日まで、経済学科高安健一ゼミのゼミ生が、学生食堂と学生センターで測定器「ベジチェック」を使って、学生の野菜摂取量を測定した。

これは高安ゼミと獨協大学父母の会が協働で行った「学生の野菜不足改善の取り組み」の1つで、期間中は学生および教職員約200名が参加した。参加者は、測定器に手のひらを乗せ、表示される数値から野菜摂取量が充足しているかを把握した。高安ゼミは同様の取り組みを11月にも実施しており、前回参加した学生は今回の数値と比較していた。

また、学生食堂では特別メニュー「Vege Style(ベジ・スタイル)」を11月と12月の毎週木曜日に数量限定で販売した。これは、1日に必要な野菜量の半分が摂れるメニューで、費用の一部を父母の会が支援している。



高橋房二先生を偲んで

益山光央

高橋房二先生は、慶應義塾大学福岡正夫先生の下で経済学を修め、弘前大学、静岡大学を経て、1989年経済学部教授に就任しました。学部、大学院で「経済原論」など理論系の講義を担当し、研究者としては、経済論文が評価の高い海外ジャーナルに掲載されるなど活躍されました。

経済学部にあっても、学部運営やカリキュラムなどに対して厳しい意見を持たれ、「理論、政策系を充実させよ」との強い主張に当時の教務委員は苦勞していたようですが、往時茫々、いまでは良き思い出となっているようです。先生のご冥福をお祈りいたします。

(ますやま・みつお 経済学科准教授)

■ 訃 報

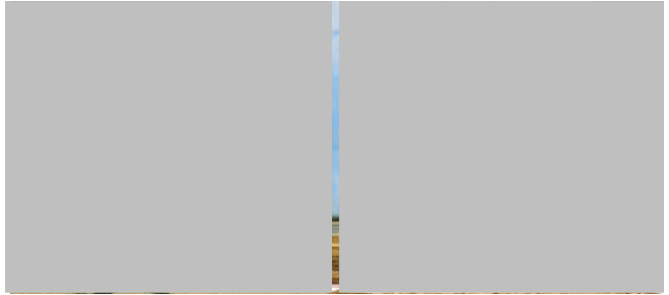


高橋 房二 (たかはし・ふさじ)
名誉教授
19年10月30日、病気のため死去、91歳
89年 教授
99年 名誉教授

硬式野球部創部初 独立リーグから指名、日本代表候補合宿参加

獨協大学体育会硬式野球部の金子尚生さん(済4年・投手)が、11月15日に行われたルートインBCL(Baseball Challenge League)2019ドラフト会議で、石川ミリオンスターズより特別枠選手として指名を受けた。同リーグから本学学生が指名されるのは創部以来初の快挙。

また、並木秀尊さん(済3年・外野手)が、11月30日から12月2日まで行われた大学日本代表候補選手選考合宿に参加。同合宿に本学学生が参加するのは創部初。並木さんは持ち味の快足と粘り強い打撃をアピールし、コーチ陣の注目を集めた。



父母の会主催 伝統芸能鑑賞教室 第14回「歌舞伎座 歌舞伎鑑賞」開催

12月15日、歌舞伎座にて父母の会主催 伝統芸能鑑賞教室「歌舞伎座 歌舞伎鑑賞」が行われ、114名の学生が参加した。

伝統芸能鑑賞教室は、古典芸能を体感する機会を通じて、学生に自国の文化理解を深めてもらう目的で毎年実施。今回で14回目となった。



参加者は、市川中車らによるユーモアあふれる人情喜劇「たぬき」、謡曲「松風」を素材にした中村梅枝らの歌舞伎舞踊「村松風二人汐汲」、坂東玉三郎らによる義太夫狂言の名作「壇浦兜軍記」を鑑賞。歌舞伎の世界を満喫できる機会となった。

メディアに登場した獨協大学 (19年11月16日～19年12月15日)

- 本学職員昼間良次さんが、その土地だけで知られる「方言漢字」についてコメント(11月16日・東京新聞朝刊・24面)
- 森永卓郎経済学科教授
11月20日、青森県労働福祉会館で「どうなる!?日本の経済」と題したセミナーを開催(11月21日・読売新聞朝刊〔青森版〕・26面)
- 福島県喜多方市高郷町本村地区を調査研究している本学の「福島県集落復興支援事業大坪チーム」の学生ら6名が、同地区を訪れ、住民らと交流(11月25日・福島民報新聞朝刊・7面、11月26日・福島民友新聞朝刊・4面)
- 本学卒業生でリットーミュージック社長の松本大輔さん(96年済卒)のインタビュー記事が掲載された(12月14日・朝日新聞〔別冊be版〕・1面・3面)